

Ⅲ 6 容器包装リサイクル法に基づく分別収集実績

(1) 平成30年度容器包装リサイクル法に基づく分別収集実績

容器包装廃棄物の減量化やリサイクルを推進するため、平成7年6月に「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」(以下、「容器包装リサイクル法」という。)が成立し、市町村等では「市町村分別収集計画」を策定し、平成9年度から計画的な分別収集が行われている。県では、これら市町村等の分別収集計画を取りまとめた「千葉県分別収集促進計画」を策定し、容器包装廃棄物の分別収集状況等を把握している。

平成30年度における実施状況を見ると、前年度と比較して全品目について、概ね横ばいで推移している。紙製容器包装については、16市町村の実施にとどまり、分別収集があまり進んでいない状況にある。

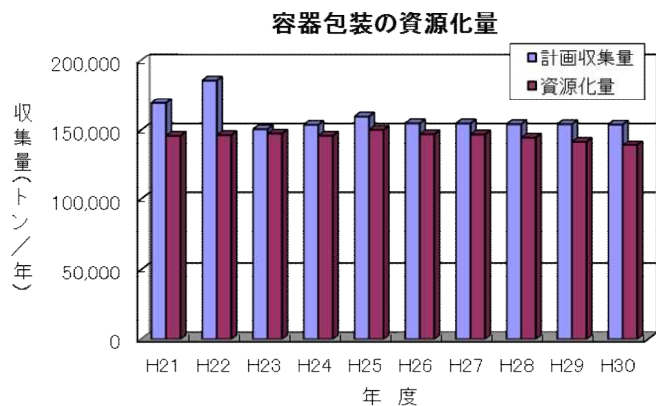
平成30年度容器包装リサイクル法に基づく分別収集実績*

品目	計画量 (t)	収集量 (t)	収集率 (%)	再商品化量 (t)	再商品化率 (%)	計画 市町村数	実施 市町村数
	(A)	(B)	(B/A)	(C)	(C/B)	(合併後の数)	
ガラス	無色	17,180	15,132	88.1	14,986	53	52
	茶色	12,247	10,232	83.5	10,125	53	52
	その他	12,047	11,039	91.6	10,983	54	54
ペットボトル	15,987	17,406	108.9	16,522	54	54	
紙製容器包装	2,409	618	25.7	560	21	16	
プラスチック製容器包装 (白色トレイ含む)	28,784	30,875	107.3	26,519	38	36	
鋼製容器包装	9,337	7,975	85.4	7,950	54	52	
アルミニウム製容器包装	9,705	9,149	94.3	9,111	54	52	
飲料用紙製容器包装	689	473	68.7	473	49	40	
段ボール	45,696	42,939	94.0	42,783	54	53	
全品目	154,082	145,838	94.6	140,013	96.0		

* 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

(2) 計画収集量及び再商品化量の経年変化

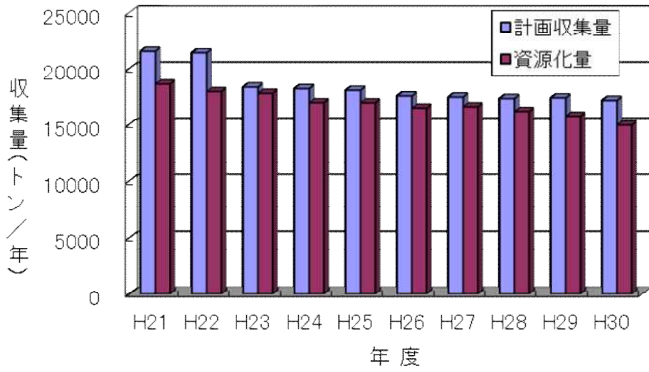
容器包装リサイクル法の分別収集対象品目は、平成9年度に分別収集が開始された時点では、無色ガラス、茶色ガラス、その他のガラス、ペットボトル、鋼製容器包装、アルミニウム製容器包装、飲料用紙製容器包装の7品目であったが、平成12年度からは紙製容器包装、プラスチック製容器包装、段ボールの3品目が追加され、現在に至っている。



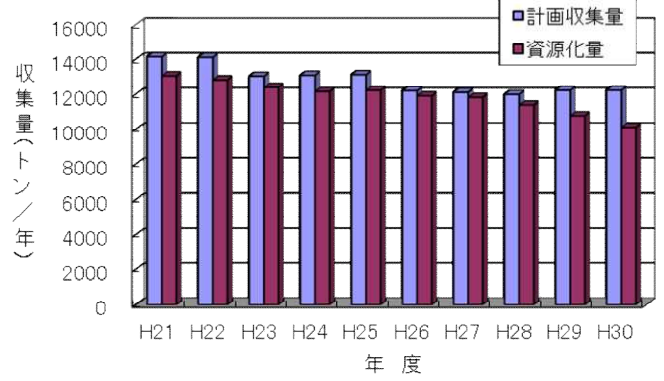
この品目追加により、再商品化された容器包装廃棄物総量は、平成9年度の約9万トンから平成12年度に12万トン、平成30年度には14万トンと増加した。

また、品目別の再商品化（資源化）量状況をみると、飲料用として広く利用されていた鋼（スチール）製容器包装、及びガラスびん（無色・茶色）が減少傾向にある一方、他の品目については概ね横ばいである。

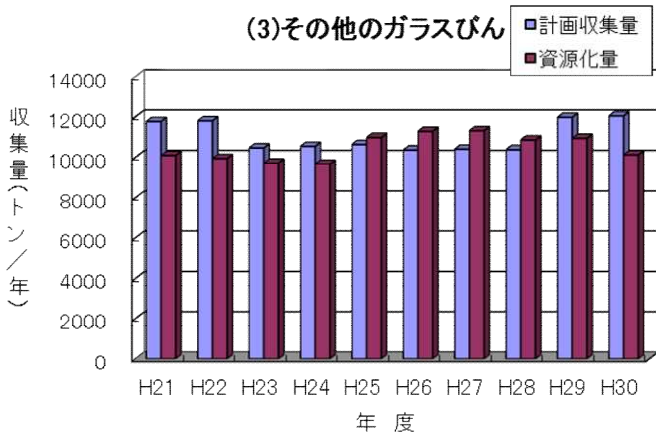
(1)無色ガラスびん



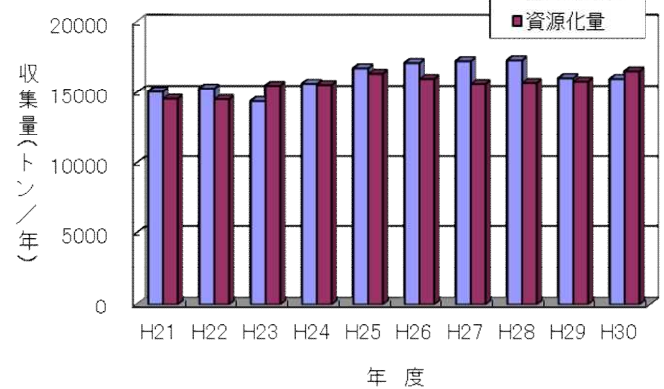
(2)茶色ガラスびん



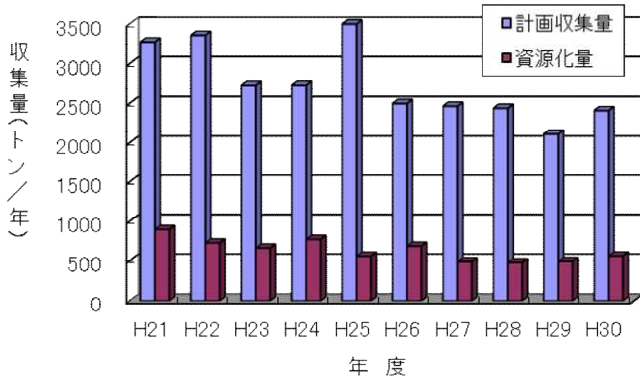
(3)その他のガラスびん



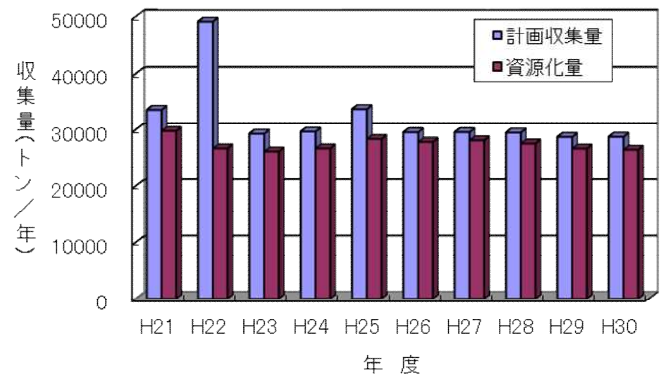
(4)ペットボトル



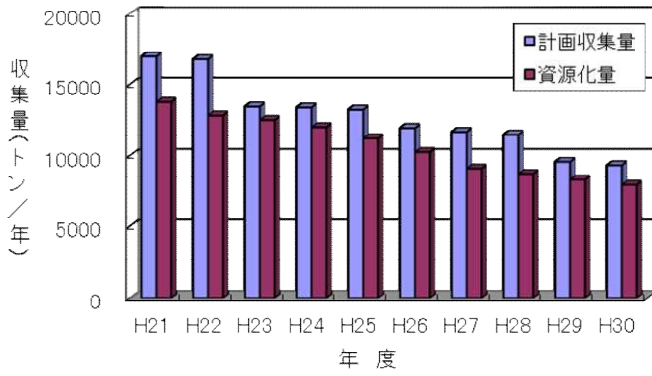
(5)紙製容器包装



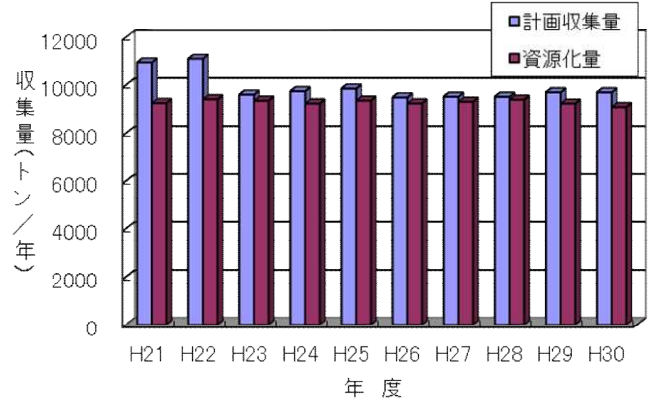
(6)プラスチック製容器包装



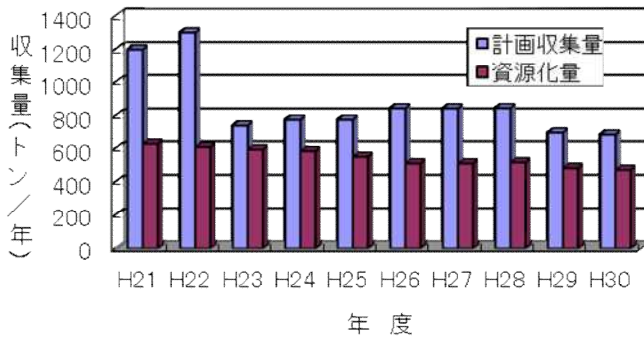
(7)鋼製容器包装



(8)アルミニウム製容器包装



(9)飲料用紙製容器包装



(10)段ボール

